

学 年	1年	教科・領域	学級活動	副読本P	P20・21
第3章1			地しんについて知ろう		

仙台市立東四郎丸小学校 1学年

「学校で地震が起きたら」

○ ねらい

避難訓練を振り返り、学校で地震が発生した際に、自分の命を守るためには、どのような行動をとることが大切かを知る。

学習活動及び発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
<p>1 避難訓練を振り返る。</p> <p>今日の避難訓練は、しっかりと取り組みましたか？ これから、みんなで確認します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい、ちゃんとできました。 ・ 放送が鳴ったら、しゃべりませんでした。 ・ 机の下に入って頭を守りました。 ・ 避難する時も、青白ぼうしをかぶって逃げました。 ・ 校長先生のお話をちゃんと聞きました。 	<p>◇ 児童にいくつか視点を提示して振り返らせるようにする。</p> <p>視点1 「放送を聞いたか。」</p> <p>視点2 「机の下に素早くもぐれたか。」</p> <p>視点3 「先生方の話を聞いたか。」</p> <p>視点4 「おしゃべりなどしないで避難できたか。」</p> <p>など</p> <p>◇ 「わたしたちの安全」を読み、地震とその危険性や避難の仕方について児童に説明する。</p>
<p>2 地震について知る。</p> <p>地震がおきた時、どんな危険がありますか。地震は、どこで起きるのでしょうか。地震はどんな所で多く起きるのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地震が起きると、家具が倒れてきます。 ・ まず、頭を守る！それから避難します。 ・ 地震は、地面の下の方で起きます。 ・ 地面が揺れるから、家とかも揺れる。 ・ 海の方で起きることが多いです。 	<p>◇ 副読本 p 20～21 を読み、日本の周りの海底で、地震が多く起きていることにも気付かせる。</p> <p>◇ 海底で地震が起きると、津波が発生する可能性があることにも触れる。</p> <p>◇ 資料「子ども防災マニュアル」の震度早見表を活用して、震度と被害の大きさについても説明する。</p> <p>◇ 避難の約束「お・は・し・も」をしっかりと守ることをおさえさせる。</p> <p>◇ 大きな地震が起きた時は、まずは、自分の命を守ることを最優先にすることをおさえさせる。</p> <p>◇ 万が一に備えて、日頃から真剣に訓練に参加する大切さを説明する。</p> <p>◇ 避難の約束をもう一度児童に確認させる。</p>
<p>3 学校で地震が起きたらどうするか考える。</p> <p>【学習課題】学校にいる時に、本当に地震が来たらどうするか、みんなで考えましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校庭に避難する。 ・ 津波が来るから、今日みたいに屋上に避難する。 ・ まずは、自分の身を守る。 ・ 「お・は・し・も」を守って避難する。 ・ 学校での避難の約束を教師と一緒に確かめる。 	
<p>4 避難の約束を確認する。</p>		

学 年	2年	教科・領域	学級活動	副読本P	P22・23
第3章2			つなみについて知ろう		

仙台市立東四郎丸小学校 2 学年



「避難する時に大切なことは」

○ ねらい

大きな地震が発生し、指定避難所へ避難する必要がある際に、自分の命を守るためには具体的にどんなことに気を付けて避難しなければいけないかを理解する。

学習活動及び発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
<p>1 避難訓練を振り返る。</p> <p>今日の訓練では、みなさんはどんなことに気を付けて避難しましたか？何のための訓練でしたか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「お・は・し・も」に気を付けました。 ・ 先生の話をよく聞いて逃げました。 ・ あ、分かった！津波だ！ 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 避難訓練の様子を振り返り、本時の課題に対してより具体的に考えることができるようにする。 ◇ 「わたしたちの安全」を活用して、「お・は・し・も」など、避難の基本となることも確認させる。 ◇ 今日の避難訓練の一番の目的は「津波からの避難」だったことに気付かせるようにする。
<p>2 津波について知る。</p> <p>「つなみ」がどんなものなのか、みんなで学んでいきましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「つなみ」か……。怖いよね。 ・ でも、どうして海が見えないのに「つなみ」の訓練したのかなあ。 ・ どうして屋上に逃げたのかなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 副読本P 22～23を見ながら、津波について説明する。 ◇ 「つなみ」は、川を逆流してくることもしっかりとおさえさせる。その上で、大きな地震が起きたときには川（特に名取川）や海の近くから離れ、高台に逃げることをおさせさせる。
<p>3 避難する時に大切なことを考える。</p> <p>【学習課題】地震で避難する時に大切なことは、どんなことか考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の命を守ること。 ・ そのために、「つなみ」とかに注意する。名取川や海から逃げる。 ・ 放送や大人の人の話をよく聞いて避難することです。 ・ 揺れがとまったら、小学校などの高い建物に避難する。 ・ ワークシートなどに、今日の授業の感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 「つなみ」が起きるかどうかは、防災無線や警報で知ることができることを児童に伝え、情報を正確に聞き取ることの大切さも教える。 ◇ 「子ども防災マニュアル」を参考に、大津波警報発令時、どのように避難したらいいかを説明し、「自分の命は自分で守る」という意識を身に付けさせるようにする。
<p>4 本時の学習感想を書く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ◇ 本時で分かったことや気付いたことを書かせる。

学校名 [通町 小学校] 氏名 [教諭 関 昭徳] [小] 学校 [1・2・3] 年版 単元名 [つなみについて知ろう] P 2 2 ~ 2 3 教科・領域名 [学級活動] [時間 4 5 分]
--

主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際
1 復興ソング「希望の道」を歌う。 2 津波について知っていることを話し合う。 ○東日本大震災では、大きな津波が仙台市を襲いました。津波についてどんなことを知っていますか。	○学習の意義を伝える。 ○防災読本の写真を拡大して提示。 津波について写真を提示して実感させる ・速さ…オリンピック選手 ・高さ…校舎4階で10mになること ・強さ…倒壊したビル ・津波が川を遡上する写真ことを示す航空写真 (石巻市大川)
2 資料 (P22) を読み、分かったことをまとめる。 ○津波の速さや高さ、力について、資料を読んで分かったことをまとめましょう。 ・つなみは猛スピードでやってくる ・とても高くなることがある。 ・強い。	
3 津波から身を守るための「4つの約束」の意味について考える。 ① 「少しでも早く海から遠いところへ逃げる」のはなぜでしょう。 ② 「より高いところへ避難する」のはなぜでしょう。 ③ 「その後も絶対海に近付かない」のはなぜでしょう。 ④ 「川から離れる方向に逃げる」のはなぜでしょう。	4つの約束の意味を考えさせることで、津波から身を守る方法の理解を深める。 
4 これからの決意や感想 「津波が起こったことを知ったらすぐ逃げる」 「津波は速い・高い・強い」 2年生の児童は、防災読本の資料を読み取ることに時間がかかった。津波のイメージを持たせるために模型などを動かして説明するとより理解しやすいと感じた。	○今は川のそばや海辺に住んではないが、行くことや住むことがある。 授業参観で学習を行った。学校での防災に対する教育内容を保護者に知ってもらえる効果はあった。復興ソングに込められた思いを担任が解説してから学習を始めたことで、津波を直接被災していない児童でも真剣に取り組む姿が見られた。

「新防災教育副読本を活用した指導事例」

<p>学校名 [栢江小学校] 氏名 [半澤 千恵子] [小] 学校 [1・2・3] 年版 単元名 [雨・風・かみなりについて知ろう] p24~25 教科・領域名 [理科] [時間 45分]</p>	
<p>主な学習活動 (実際に行った活動)</p>	<p>指導の実際</p>
<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 天気の変化して、雨、風、かみなりなどの自然現象が起こること、それがはげしくなると災害にもつながる危険があることを知る。 ・ 天気予報の表し方や、太陽・空・雲・地面の様子などから、自分でも危険を察知し危険を回避しようとする関心意欲・態度を育てる。 <p>1 天気の変化によってどんな現象が起こるか、これまでの経験を集めて確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートに、「天気が悪くなる」とはどんなことかを書き出し、発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 雨が降る ・ 風がふく ・ 雷が鳴る ・ 竜巻 ○ その中で「こわい」と感じたことはあったか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 道路が川のようになった ・ ふっとばされそう ・ 崖や山がくずれ人や家がながされたニュース ○ 人間の力では止められない自然現象であることを確認する。 <p>2 危険から身を守り災害に巻き込まれないために、どうしたらよいかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「にげる」「家に入る」「かくれる」の3つから、自分ならどうするかをワークシートに書く。 ○ 書いたものをもとに、どの行動がよいか話し合う。(グループ→全体) ○ 正しい判断の助けになるものはないか？ <ul style="list-style-type: none"> ・ 天気予報 ・ ニュース ・ 自分で観察 等 <p>3 DVD「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう」を視聴し、正しい判断や予知する力の大切さを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 視聴しての感想を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 雷こわい。雨も。あの子たち助かったかな？ ・ 天気予報で言っていたのを気を付ければよかった。 <p>4 新防災教育副読本の p 24～25 を見ながら、天気の変化と災害について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 天気予報での表現と実際の気象状況、起こりうる災害について、資料を全員で読みながら確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 雨は雨量を測るんだ。予報で何ミリと言ったらこんな準備しなくちゃ。 ・ 風の強さは風速何メートルって言った。 ・ 雲の様子を見て、雷や竜巻に気を付けなきゃ。 ○ ワークシートに感想をまとめる。 	<p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新防災教育副読本 一部を拡大したもの ・ DVD「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう」 ・ かさ ・ 水槽 ・ 送風機 ・ ワークシート <p>1 「天気の変化」が災害につながる時もあることの確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 突風や大雨で身近に起きたことの体験談が子供たちから次々と出された。 ・ 広島で起きた災害のニュースも、多くの子が関心を持って見ていたのが分かった。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 身(命)を守る行動の必要性を、ほぼ全員が感じ取った。 <p>2 身を守る行動＝適切な避難行動とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三択でワークシートに書かれた答えは、それぞれ異なり、それをもとにグループで意見交換してみると、いろいろな視点が出された。 <ul style="list-style-type: none"> ※ 身を守る行動には正しい判断が必要だが、状況により簡単ではないことに気付く。ここで天気予報やニュース等メディアによる情報に関心が向き空や雲の観察に関心を向けられなかったことを反省している。3年理科としては大切にしたい視点。 <p>3 DVD(気象庁製作)被害編6分のみ視聴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然のサインを見逃さないこと、大丈夫と軽視しないこと、危ないと感じたらすぐ避難行動をとること等を感じ取るには効果的な教材となった。 <p>4 新防災教育副読本を資料に、雨や風、雲について強さの表し方や災害との関係について知る。</p> <p>副読本を熱心に読む 資料の説明 送風機を使って</p> <p>【授業評価】</p> <p>3年理科に防災教育のねらいを重ね、盛りだくさんのことを目指したため、理科としては適切な学習過程だったといえないと感じている。避難を身近なこととしてとらえさせることはできた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 雷は高い所に落ちる事がわかった。車や家に逃げる。 ・ 雷が鳴っているときは木の下にはいけない。 ・ 雨の日は川や海の近くには行かない。 ・ 逃げること、避難が大事ということがわかった。 ・ 自然の災害はすごいなと思った。 ・ 「大丈夫」とか言わないできちんと見る、調べる。等 	

天気の変化と行動について考えよう

名前 _____

「天気が悪くなる」とは	それがひどくなると・・・	どうする？

→



学 年	3年	教科・領域	学級活動	副読本P	P26・27
第4章1			家のまわり学校のまわり		

仙台市立東四郎丸小学校 3 学年




「通学路で地震が起きたら」

○ ねらい

通学路の危険な場所や地域の避難場所を確認したりする活動を通して、災害発生時に安全に避難するために注意しなければならない場所や安全な避難方法について考える。

学習活動及び発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
<p>1 避難訓練を振り返る。</p> <p>今日の訓練は、避難の約束などを守って真剣に取り組むことができましたか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「お・は・し・も」を守って避難できました。 先生方のお話もしっかりと聞きました。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 児童から意見を出させる中で、学校での避難のしかたや避難時の約束などを確認させる。
<p>2 学習課題を知る。</p> <p>【学習課題】通学路で、大きな地震が起きたら、どんなことに気を付けたらいいかを考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 通学路で地震が起きたら大変ですね。 どうしたらいいのかなあ。 学校に逃げる？家に帰る？ 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 通学路（学校のまわり、家のまわり両方）で、地震が起きたときに危険に感じるものや場所はないか、児童から意見を出させるようにする。 ◇ 意見があまり児童から出なかった際には、次のような視点を与えるようにする。 視点1：倒れてきそうな物 視点2：こわれそうな物 視点3：離れた方がいい所 など
<p>3 どんなことに気を付けたらいいかを考える。</p> <p>具体的に、どんなことに気を付けたらいいかな？どこにどう避難したらいいかな？</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自動販売機があったら、そこから離れる。 家が近いときは、家に帰るようにする。 登校中なら、学校に行ったほうがいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 副読本P26～27に、学校のまわりや家のまわりで、気を付けなければならない所をまとめさせる。 ◇ 子ども防災マニュアルを参照し、登下校中に地震があったときの行動のしかたを説明する。 ◇ もしもの時に備えて、避難する場所や電話が通じないときの連絡の取り方などを家族で話す機会を持つことの大切さにも触れるようにする。
<p>4 本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートなどに、今日の授業の感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 本時で分かったことや考えたこと等を書かせる。

学校名 [北六番丁小学校 3年] 氏名 [宮城 のぞみ 教諭] [小] 学校 [1・2・3] 年版 単元名 [ひなんのし方を考えよう 他] P 28～35 教科・領域名 [総合的な学習の時間 暮らしを見つめよう (10時間)] [時間 本時45分]	
主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際
【単元の目標】 ・安全な避難について考え、内容を工夫して「家族防災会議」を開き、被災時の行動・避難について家族で話し合う。 ・これまでの学習・人々のつながりを生かして、地域の防災マップを作成し、防災意識を高め、災害時に安全に行動する態度・能力を高める。 ・一人で家にいるときに大きな地震が起きたらどのように避難するか、家族防災会議の内容や防災マップを生かして考える。 ・日頃から地域の人たちとどのようにかかわっていけばよいか考える。	
第2時 【目標】 (家族会議、共助・公助の体制) 大きな地震が起きた時の避難方法・連絡方法・日頃からの準備等について、自分たちで内容を考えて家族で話し合う。 1 地震が起きた時・日常の防災について家族で話し合っておくべきことを考える。 2 みんなで「話し合いシート」を作成して、実際に家庭で「家族防災会議」を行う計画を立てる。	【防災副読本】 第4章5 「家族ぼうさい会議をひらこう」 ・副読本 p.34、35 を参考にして、家族と話し合う項目を考え、みんなで検討して会議用のワークシートに高めていく。 ・これまでの避難訓練や総合で施設や人々について学んだことをもとにして考える。 ・この授業を授業参観で行い、家族の理解をいただいた。
第3時～第8時 (5時間) 【目標】 (体験的な活動、地域密着の教材、マップ) 地震が起きた時に、地域で安全なところや危険なところを実際に地域に出かけて調べ、成果をマップにまとめる。地域の特色を考える。 1 副読本を読み、目的を理解し、自分たちで地図に表わす記号を考え、学習計画を立てる。 2 地域に出かけて調べる。地域の方のお話を伺う。 3 マップにまとめ、地域の特色を考える。	【防災副読本】 第4章2 「ぼうさいマップをつくろう」   
第9時【本時の目標】 (危険予知・回避能力、主体的行動、災害心理、自助) 地震が起きた時の心構えと、よりよい対応の仕方について考える。 1 一人で家にいるときの避難の仕方を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 一人で家にいる時に大きな地震が起きたらどうしたらよいか考えよう。 </div>	 ・家族防災会議のワークシートを見て、家族との話し合いを踏まえて考える。

主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際	
<p>2 ゆれが収まったら、どのように行動するか考える。</p> <p>3 自宅から避難する方法について、防災マップを活用しながら考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北六地区、中江地区の二つの方面別の防災マップを活用して発表し合い、友達の考えを理解して自分の行動に生かす。 ・日頃の学習や話し合い、地域の人との交流、物資の準備等の減災への取組が、災害心理をおさえて安全に命を守ることにつながることに気づかせる。 	<p>【防災副読本】第4章3 「ひなんのし方を考えよう」</p> <p>第4章4 「自分できめる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パニックになりやすいことを押さえ、これまでの学習や準備している物を生かして落ち着いて判断・行動することを学ばせる。 ・重篤な津波体験をした児童に配慮し、「津波がくるかもしれない」という避難理由を強調せず、「家には危ない」という状況で考えさせる。 	
<p>【副読本を活用してみよう】本単元では、第4章の2から5を活用した。総合的な学習の時間の単元で、これらの学習内容を連続して行ったことは、学びの積み上げや家庭・地域との連携も踏まえた上での児童の具体的な思考・判断を促し、主体的に行動する力の育成に効果的であった。このことが、次の「共助」の力を育成する学習に発展させることにつながると考えた。本時では、被災地からの転校生に配慮し、文章は提示せず、イラストを拡大して提示して考えさせた。</p>		
		
<p>【児童の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族ぼうさい会議のとき、「まず家の中で一番安全な場所にいる」「電話が繋がらないときは、伝言ダイヤルに電話する」「避難が必要なときは学校に避難する」「近所でそうだんする人」などを決めました。家族全員で話しました。おうちの人のしつもんですごく分かりました。 ・防災マップの地図記号を作ったとき、自分が考えた地図記号がえらばれてよかったです。わかりやすい記号にしました。 ・防災マップ作りの見学をして、いろいろな所に気づきました。意外に、道にはブロックべいが多かったです。危険なところ・安全なところを地図に書きこみました。危険なところは「ふみきり」「自動はんばいき」「川」「電柱・電線・がいとう」「かんばん」などです。「ガラスの多い建物」もあります。本当に大きな地震が来て、学校にひなんすることになったら、れいせいにしてこのようなものに気をつけて学校に行きます。連絡をのこして、避難場所で家族に会って命を守ることができればいいと思います。 ・どの道を通ったら良いか少しまよいました。たおれてきそうな物の少ない道をえらびました。 ・安全な公園・病院もあります。こうしゅう電話・トイレもあります。子ども110番の家、地域の村上さん、工藤さん、佐藤さん、ボランティアの人などいつも見守って下さる方がいらっしやるので、命を守るためにれいせいに落ち着いて行動したいです。 		

学校名 [立町小学校]	氏名 [授業者 田村 由香子]
[小] 学校 [1・2・3] 年版	単元名 [ひなんのしかたを考えよう] P30～31
教科・領域名 [学活] [時間 45 分]	

主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際
-------------------	-------

【ねらい】
 学校以外の様々な場面でも、地震などの災害が発生したときにどのようにして身を守るのか、どのように避難するのか考えさせることで、災害時に安全に避難行動がとれるような意識を育てる。

1 地震が起きたときに、安全に避難する方法を考える。

地震はいつでもどこでも起きます。子どもだけでいる時に、まず自分の身を守るためにはどのように行動したらよいでしょうか。

- ・ドアをあける ・机の中に隠れる ・頭を守る
- ・ガラスのないところに逃げる
- ・建物のないところ、落ちてくるものがないところに逃げる ・ピアノに寄らない

次にゆれがおさまったら、どのように行動したら良いでしょうか。

3. 1 1 東日本大震災の時の写真資料を見る。
- ①津波が来た後の石巻市の航空写真
 - ②津波が来たため高台への階段を昇る写真
 - ③天井が落ちた仙台駅のホーム)

2 架空の街を想定し、危険予知トレーニングをする。

あなたは、この街に住んでいる人です。大きな地震が起きました。あなたは海岸の市場の近くにいました。揺れがおさまった後、次にどのように行動したら良いでしょうか。

- ◇仮想の地図をもとに、一人で避難経路を考える。
- ◇グループの人と考えたことについて発表し合う。
- ・わたしの考えと同じだ。
- ・神社は山になっているから高い所でいいね。
- ・海から早く離れた方がいいよね。
- ・小学校で大丈夫かな。

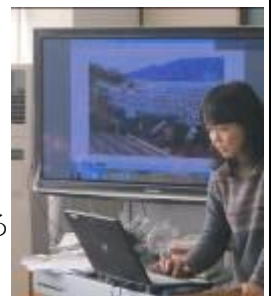
- 【準備物】**・パソコン ・大型テレビ
- ・書画カメラ ・副読本 P30～31の拡大図
 - ・ワークシート ・副読本 P30～31(児童)



- *副読本 P.30 のリード文を読む
- *これまでの経験から想起させる。
- *意見が出にくい場合は副読本 P.30 を参考に読ませる。(3.11の記憶の有無によって発表内容の傾向が異なることがある)

*写真資料は河北新報 HP より
<http://japanecho.net/jp/photos/5005/>

- *気付かせたいポイント
- ・低地は津波に襲われる
- ・高台への避難の必要性
- ・建物などの崩壊の危険
- *安全な避難経路を考える資料としたい。



お互いの考えた避難経路について話し合う

◇グループ代表の考えを全体に発表し、全員でよりよい避難方法を考える。

- ・山の上の神社…津波が来る危険があるから、高い所の方が安全だから
- ・小学校…避難所になっているから。
- ・学校の屋上…高い所だから
屋上に行けない時には校庭にいる
- ・交番…大人の人がいるから。遠すぎると移動の時間危ないから
- ・市民センター…ここだと津波が来ないと思うから人も多く入りそうだから

みんなの考えを聞いて、どんな避難の仕方が良いと思いましたか。

- ・高いところへ逃げる
- ・安全は道を通ってできるだけ早く逃げる
- ・避難した所が危険な時には次の避難場所も考える

この場合、避難する時に気を付けた方がよいことは何でしょうか

- ・海や川に近づかない
- ・がけ崩れがないか気を付ける

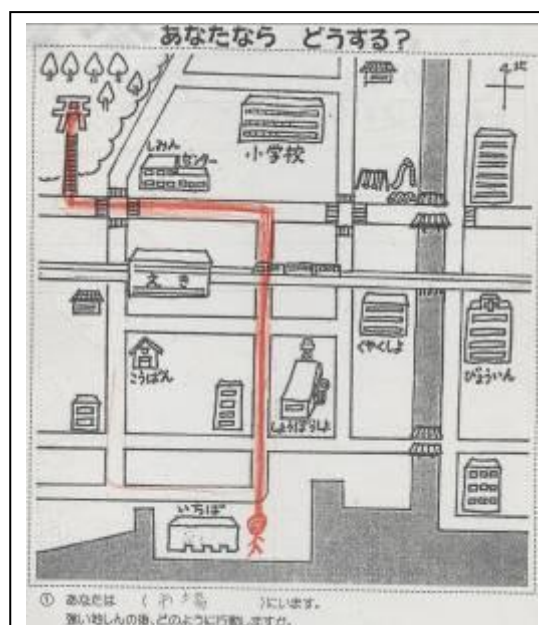
3 学習を振り返る

今日の学習を通して感じたことや思ったことをワークシートに書きましょう

わたしは今日の勉強で、危険予知トレーニングをする前から、絵を見てここに逃げようと決めていたので、速く決めることができました。地震の時は自分から身を守ることを覚えました。今日、お母さんやおばあちゃんに話そうと思います。

ぼくは、一人にいる時も地震が来ると分かりました。後、一人にいる時に地震が来たら、自分で行動しなくちゃいけない時もあるんだなあと思いました。

* 書画カメラでワークシートをテレビに映す



児童が考えた避難経路で多かった考え





安全な避難経路について全員で話し合う

地震はいつでも起きるので大変だなと思いました。後、避難する場所を考えた方がいいんだなと思いました。一人でも逃げられるようにしておこうと思います。

* 今回の指導過程では、危険予知トレーニング(KYT)は、地震についてのみしか実施できなかった。台風などの他の災害時についても実施すると良いと思う。他の学年でも、別の想定で実施してはどうかと考える。

「新防災教育副読本を活用した指導事例」

<p>学校名 [荒町小学校]</p> <p>[小] 学校 [1・2・3] 年版</p>	<p>氏名 [小松宏隆]</p> <p>単元名 [家族防災会議を開こう] P 34~35</p> <p>教科・領域名 [学級活動] [時間 45分]</p>
<p>主な学習活動</p>	<p>指導の実際</p>
<p>[ねらい] 突然に起こる災害。災害が起こったときにすばやく行動できるように話し合う。</p> <p>1 地震が起きた時、みんなが困ることは何か、家族や自分がどこに避難したらいいのか、家の中で危ないところや直した方がいいところを発表する。 (学習活動) (主発問)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>もしもの時、みんなが困ることはどんなことか、家族や自分がどこにひなんしたらいいかを発表しましょう。また、家の中の危ないところやなおした方がいいところを発表しましょう。その理由も発表しましょう。</p> </div> <p>(実際の児童生徒の反応)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・公園にいたときは、揺れが収まるまで動かないでいます。 ・学校にいたときは、学校で待ちます。 ・テレビの近くが危ないです。 ・食器が落ちてくるので、落ちないようにしておきます。 </div> <p>2 災害から逃げるためにどのような物を準備したらよいか考える。 (主発問)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>提示した物の中で必要な物・必要でない物はどれですか。選んだ理由も書きましょう。</p> </div> <p>(実際の児童の反応)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ラジオは、いろいろな情報が入るので必要です。 ・懐中電灯は、暗いところを照らすのに必要です。 ・ぬいぐるみは、必要ではないです。 ・サランラップは、必要でないと思います。 ・サランラップは、必要だと思います。 </div> <p>3 まとめ</p> <p>今日、学習したことで思ったことや考えたことをプリントに書きましょう。</p>	<p>[準備物] 掲示物・児童が家で調べてきた学習カード</p>   <p>[児童の感想]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震がきてからではなく、来る前に、考えることが大切なんだと思いました。 ・地震は、いつ起こるか分からないので、家で危ないところは直しておきたいと思います。 ・災害が起きても、準備をしておけば大丈夫だと思いました。 ・サランラップも使えることが、初めて分かりました。

学校名 [通町小 学校]

氏名 [教諭 安附 仁]

[小] 学校 [1・2・3] 年版 単元名 [ぼうさいリュックをいしよう] P36～37

教科・領域名 [学級活動] [時間 45分]

主な学習活動 (実際に行った活動)

指導の実際

【ねらい】

・もしもに備えて、自分の家の防災リュックを準備する意識をもつ。

1 遠足に行く時のリュックに入っているものを思い出し確かめる。(遠足に行く時、リュックの中に何が入っていたかな?)

(・おやつ・お弁当・タオル・ビニル袋 他)

【児童に伝えたこと】

リュックは、たくさんのもが入り、手が自由になるのでとても便利であることを知らせる。

2 防災リュックの中に入れる必要なものを考え選ぶ。(「電気や水道・ガスがない無人島に1週間過ごすことになったら、リュックの中に何を入れますか?」)

(缶詰・薬箱・水・ラジオ・ホッカイロ 他)

*「防災」という言葉に震災への恐怖を思い出す児童がいるので、無人島に代えた。

【児童に伝えたいこと】

防災リュックの中に入れるものを選び、友達と比較し話し合い、担任が支援しながら必要なもの(「必ず必要なもの」と「あると便利なもの」)を知らせる。そして「クラスみんなが考えた防災リュック」を完成させることによって防災の意識をもたせる。

3 「わが家の防災リュックをいしよう」を読み、「わが家の防災リュック」について考える。(「家族の人と、今日の防災リュックについてお話してね。」)

【児童に伝えたいこと】

「クラスみんなが考えた防災リュック」を完成する前に、一人一人が選んだものに違いがあったことを思い出させ、それぞれの家で家族構成が違うので、自分の家の防災リュックを準備することに気付かせる。

【準備物】

・リュック (遠足用・防災用)

・リュックに入れる主な物

(おやつ・お弁当箱・敷物・ビニル袋・タオル・水・ジュース・着替え・薬箱・携帯ラジオ・懐中電灯・ホッカイロ・財布 他)



【学習形態】グループ学習



自分が必要と思われるものを選んで、友達に説明したり、友達の選んだものとその理を聞いたりしながら、「クラスみんなが考えたリュック」を作っていた。



【児童の感想から】

リュックの中に入れるものは、みんな違うこと分かった。みんなで楽しく選ぶことができた。ぼくが選んだものが決まってよかった。お母さんにもリュックのこと話したい。

「新防災教育副読本を活用した指導事例」

<p>学校名 [上愛子小学校] 氏名 [千葉 克人] [小] 学校 [1・2・3] 年版 単元名 [ぼうさいリュックを用いしよう] P36~37 教科・領域名 [学級活動] [時間 45分]</p>	
<p>主な学習活動</p>	<p>指導の実際</p>
<p>【ねらい】 様々な自然災害に直面した時の適切な持ち出し物について考え、日頃からの防災意識を高める。</p> <p>1 学習課題を知る。 ○ 地震や津波以外に、どんな自然災害がありますか？ ・ 大雨 ・ 突風 ・ 台風 ・ 噴火 ・ 竜巻 ・ 土砂崩れ ・ 川の氾濫 ・ 雷 ・ 大雪</p> <p>2 いろいろな自然災害の様子について考える。 ○ 自然災害が起きると、どんな被害が出るでしょうか？ ・ たくさんの雨水により、川が増水する。 ・ 大雨により、道路や家が水につかる。 ・ 突風により、いろいろな物が飛ぶ。 ・ 落雷で感電したり停電になったりする。 ・ 竜巻で物が吹き飛んで家が破壊される。 ・ 山が崩れて土砂が流れてくる。 ・ 大雪で家がつぶれたり壊れたりする。</p> <p>3 災害が発生した時に、避難するための準備について考える。 ○ 家が被害にあったら、逃げる時にどんな物を持ち出したら良いでしょうか？ ・ お金 ・ ペット ・ ゲーム</p> <p>○ もしもの時に、何が必要になるでしょうか？ ・ 食べ物 ・ 懐中電灯（電池） ・ 着る物や履き物 ・ 軍手 ・ トイレ ・ ちり紙 ・ 水 ・ 敷きもの ・ 薬 ・ ラジオ（携帯電話）</p> <p>4 まとめ</p> <p>○ 自然災害による不測の事態に備えて、前もってどのような準備をすればよいのか各自の家庭の状況を考えてワークシートに記入する。</p> <p>※教師の体験談を聞く。</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 台風や竜巻・突風被害を新聞記事より想起させる。 ・ 副読本P23-25の被害写真から過去の記録を参照させる。 ・ 副読本以外に気象庁のWeb資料を扱い、自然災害のイメージを具体的に捉えさせる。 ・ 自分の経験や知識を振り返って、ペアで紹介し合った後に、グループ内で意見交換したうえで、全体で発表する。 ・ 気象に関する難しい専門用語等については、児童の理解できる範囲で適宜説明を加える。 ・ いろいろな災害についての様子を記した指導資料（パネル）を参考として提示して補足する。 ・ ワークシートに記入させる。 ・ 自分の家に実際に起こるであろう被害をもとに考えさせ、ふだんの実践行動につながるよう意識させる。 ・ 緊急時に避難した時の状況をできるだけ具体的に考えさせる。 ・ 災害後に被害が増大しないよう前もって準備しておくことの大切さを意識させる。 ・ 全体での意見交流により出た情報について、正しい知識として確認していく。 ・ 記入後、取り上げたものについて、発表を通し、明らかにした内容を自分や家族の問題として意識させる。

もしもの時に必要な物を考えよう！

3年 番 名前 ()

1 自然の災害には、どんなものがあるだろう？

--

2 それらの災害にあうと、どんな被害を受けるだろうか？

(1)

--

(2)

--

(3)

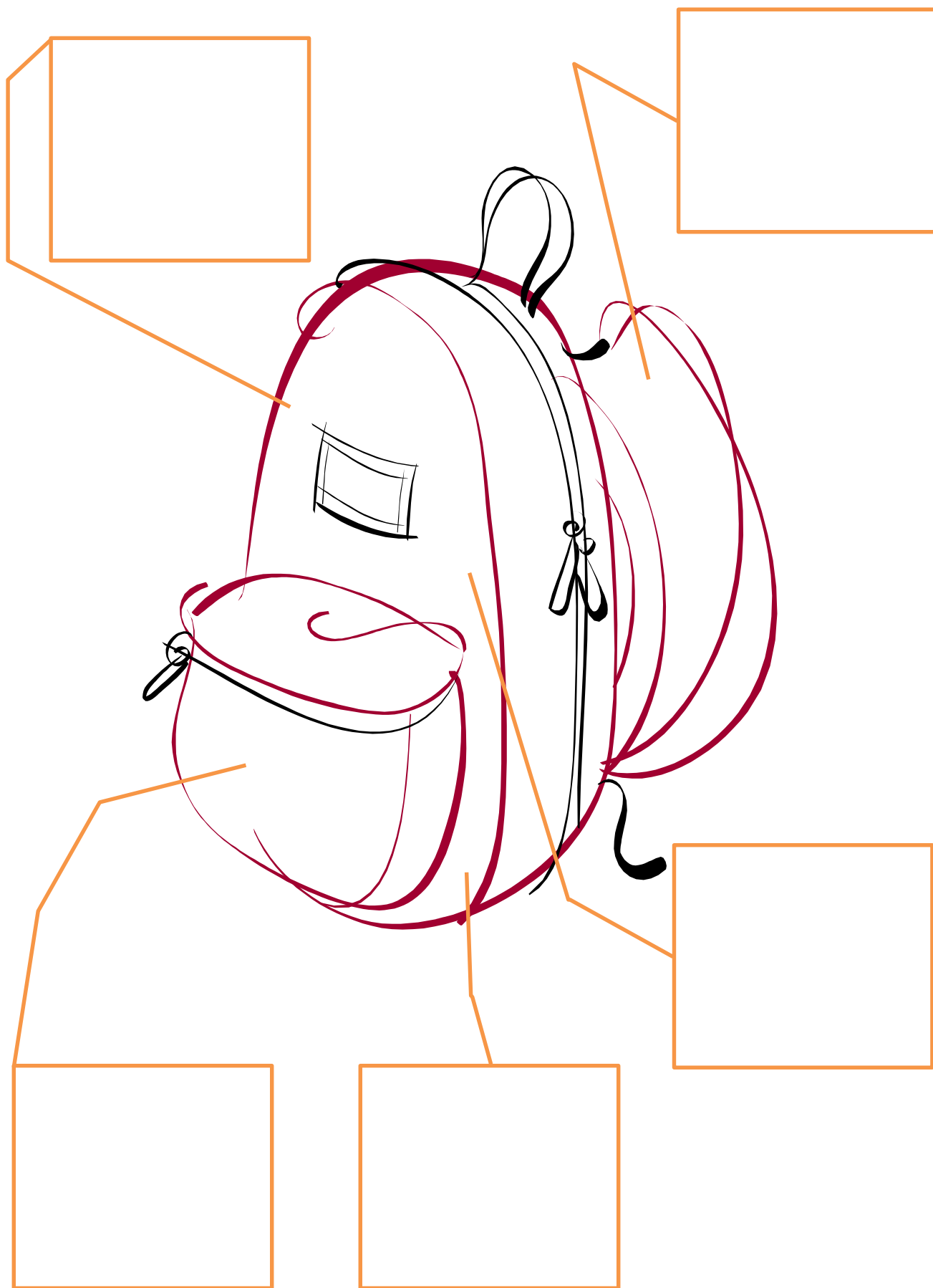
--

3 災害になった時、ないと困ることはどんなことだろう？

4 いざ逃げるときに、持ち出せる物は？

我が家の防災リュック

3年 番 名前 ()



学校名 [西多賀小学校] **氏名** [菅田 美奈子]
 [小] **学校** [1・2・3] **年版**
単元名 [ぼうさいくんれんにさんかしよう] P38～39
教科・領域名 [学校行事・学級活動] [**時間** 135分]

主な学習活動	指導の実際
<p>1. 一時避難・登校の振り返りをする。</p> <p>2. 地域合同避難訓練に参加することを知らせる。</p> <p>3. 地域合同避難訓練に参加する際に守らなければならないことを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童は、登校途中に大規模地震発生の想定で、一時避難所へ避難し、迎えに来た教員と一緒に学校へ来ていた。 ・ 一時避難所に避難できたか、大人の人々の指示に従って待機することができたかを確認を行った。 ・ 本時は、日曜日であり、学校で地域の防火防災・避難所開設訓練が行われ、自分たちも参加・見学をさせてもらったのだということを確認した。 ・ 副読本 P.38 を読み、避難訓練で守らなければならない大切なことは何かを考え、発表させた。  <ul style="list-style-type: none"> ・ 副読本 P.39 を読み、自分たちの地域ではどんな訓練が行われているか予想させる。

4. 地域合同避難訓練に参加する。

- ・ 地域の人たちによる防火防災・避難所開設訓練の様子を見学した。
- ・ 消防署による防災ダックの寸劇・防災の講話を聞いた。






- ・ レスキュー車を見学し，説明を受けた。



5. 訓練に参加した感想を話し合う。

- ・ 訓練に参加して，気付いたこと，思ったこと，感じたことなどを書き，発表した。



学校名 [愛子小学校] 氏名 [鈴木 香代] [小] 学校 [1・2・3] 年版 単元名 [けがをしたときは] P40～41 教科・領域名 [体育] [時間 45分]	
主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際
<p>1 普段の生活で、けがをしたときの処置をどのようにしているか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水で洗っている。 ・ 絆創膏を貼っている。 <p>2 けがをしたり、倒れていたたりする人を見つけたとき、大人の人にどのように伝えたらよいか考える。</p> <p>(1) 自分で考え、新防災教育副読本 P41の吹き出しに書き込む。</p> <p>(2) 付箋に自分の考えを書き、ワークシートに貼り付けながらお互いの考えを共有する。</p> <p>(3) 大人の人に伝えるために、どんな点が含まれていなければならないかを確認する。</p> <p>(4) 大人の人への伝え方(文)を班で話し合い、ワークシートにまとめる。</p> <p>3 班で考えた伝え方を前に出て発表する。</p> <p>4 副読本 P40を読み、自分でできる手当ての方法を知る。</p> <p>(1) 傷などによる出血の手当て</p> <p>(2) 打撲</p> <p>5 副読本 P41の囲みを確認し、身近なものが手当てに役立つことを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間があれば、レジ袋とハンカチを用いた止血法などを実際に行わせる。 <p>6 まとめ</p> <p>本時の学習を終えての感想をノートに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自作の動画を用意し、階段の踊り場に人が倒れている様子を見せ場面をイメージさせる。  <ul style="list-style-type: none"> ・ 2の(2)以降はグループの形態で行わせる。 ・ 「どこで」「だれが」「どんな様子」など含まれていないと適切に伝えられないことに気づかせるようにする。  <ul style="list-style-type: none"> ・ 圧迫止血体験の様子 

学校名 [虹の丘小学校]

氏名 [飯野 正義]

[小] [1・2・3] 年版

単元名 [生きるためにひつようなもの] P42～43

教科・領域名 「学級活動」 [時間 45分]

主な学習活動 (実際行った活動)

指導の実際

ねらい

人が生命を維持するために必要なものについて理解し、災害時に自分の体を維持に気をつけることができるようにする。

1 東日本大震災で水や食べ物がすぐに手に入らなかったことを思い出す。また、沿岸部では、壊れた家屋の中で、救助が来るまで待ち続けた人々がいたことを知る。

東日本大震災の直後は、大変なことがいろいろありました。どんなことを覚えていますか。

- ・ 水道から水が出なくてたいへんだった。
- ・ お店がほとんど開いていなくて何も買えなかった。
- ・ スーパーにたくさん並んで買い物をした。
- ・ 自動販売機も全て売り切れで何も買えなかった。
- ・ ガスや電気が無くて料理ができなかった。

2 災害用備蓄倉庫を見に行く。

災害に遭ったときに私たちが生きていくにはどんな物が必要でしょうか。予想してみましょう。

- ・ 食べ物、水、家、服等

災害用備蓄倉庫に何があるか調べてみましょう。

- ・ 水…のどが渇いたときに飲むのだと思う。
- ・ おかゆ、乾パン…お腹が空いたとき食べると思う。
- ・ ガスボンベ…料理をするのに使うと思う。
- ・ 毛布…寒いときに使うのだと思う。

資料を読んで、人が生きるために必要な物についてまとめましょう。

- ・ 人が生きるためには、水と食べ物と温かさが必要。
- ・ 水やパンやご飯がなければ、生きられない。

【児童に伝えたこと】

人が生きていくためには、水と食べ物と暖かさが必要である。学校には地域の人のために倉庫の中にたくさんの物があるように、みんなの家でも備えておくことが大切。

3 「こんな時には…」を読み、対応を考える。

資料を読んで、もしもの時にはどうするかを考えてみましょう。

- ・ 動かないで大人の人を待つ。
- ・ 何でも良いから食料を探す。

【児童に伝えたこと】

体をあたたためて、水分と食べ物をとりながら大人の人を待つようにする。

【準備物】 ・パソコン・テレビ・災害用備蓄倉庫の毛布・ペットボトル



- 想起することに抵抗を感じている場合は無理をさせず、児童の心理的負担に配慮した。
- 学校にある災害用備蓄倉庫の場所に行き、そこにある物を確認し、それぞれの物について、必要性を考えさせた。
- 災害用備蓄倉庫にある物をきっかけに、「水」「食べ物」「体温を保つための物」が生きていくためには最低限必要であることを考えさせた。
- 3では、低学年の児童が対象なので、自分で行動するよりも最も安全な状態で救助を待つように教えた。



- 小学3年生の体に含まれる水の量をペットボトルで示し、イメージしやすいようにした。

児童の感想から

- ・ 災害用備蓄倉庫の中を初めて見ました。毛布がたくさんありびっくりしました。人が生きていくのには暖かさが必要なのだと初めて分かりました。家の防災用リュックの中にも入れておこうと思いました。
- ・ 人間の体の中にあんなに水があるなんて思いませんでした。水って大事なんだと思いました。

小学（下） 生きるためにひつようなもの

年 組 氏名

1 さいがいようびちくそこにはどんなものがあるでしょう？ よそうしてみましよう。

東日本だいしんさいのときは、水やたべものをもとめてぎょうれつができたね。生きるためにひつようなことはどんなことだろう…？



2 さいがいようびちくそこにあつたものをかきましよう。




3 人が生きていくためにひつような3つのことは…

1

2

3

学校名 [東六番丁小学校] 氏名 [谷本 恵美] [小] 学校 [1・2・3] 年版 単元名 [学びのまど] P60 教科・領域名 [学級活動] [60分]	
主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際
<p>〈ねらい〉</p> <p>地震が起きた時に児童自身がどのように行動すればいいのか判断力を養い、自分の身を守ることの大切さに気付くことができる。</p> <p>1 東日本大震災の時の学校の様子について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 東六番丁小学校も避難所になったことや、当時の学校の様子を話す。 <p>2 家にいる時、外で遊んでいる時に地震がきたらどうするかグループで話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループごとに話し合い、紙に書いて発表させる。 <p>3 防災のキーワードを知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「知っておこうぼうさい学しゅうのキーワード(P. 60)」を読む。 「自助」「共助」「減災」のキーワードについて、教科書を用いて説明する。 <p>4 発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> キーワードで学んだことを生かし、自分たちの考えを振り返り、大切だと思ったことを発表させる。 	<p>《児童の反応》</p> <ul style="list-style-type: none"> ぼくは幼稚園から帰ってきて家にいた。お母さんとお兄ちゃんを迎えに学校に行った。 もし小学生だったら、帰りの会とか掃除の時間だと思う。 低学年だったら、家に帰っている途中かもしれない。 先生の指示で机の下に隠れて、揺れがおさまったら、体育館に避難する。 家の人を迎えに来るまで学校にいる。 <p>(家にいる時)</p> <ul style="list-style-type: none"> テーブルの下にもぐる。 ラジオをつける。 家に大人がいない時は、学校に行く。 <p>(外で遊んでいる時)</p> <ul style="list-style-type: none"> 物が落ちてこないところに行く。 安全なところで揺れがおさまるまでかくれる。 学校に行く。
	

新防災教育副読本（小学校1・2・3年）

『第4章1 家のまわり学校のまわり』を活用した生活科の指導案例

第1学年 生活科学習指導案

1 単元名 がっこうだいすき（1年）（実施時期 4月～6月）

2 単元の目標

友達と一緒に校舎内や校庭を歩いたり，通学路の様子を調べたりして，学校の施設や学校生活を支えている人々，自分たちの安全を守っている人々のことが分かり，楽しく安心して遊びや生活ができるとともに，安全な登下校ができる。

3 単元について

(1) 学習指導要領の内容

本単元は，学習指導要領の内容(1)「学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かるとともに，通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心を持ち，楽しく安心して生活ができたり，安全な登下校ができる」を主として(3)(4)(5)(6)(7)(8)(9)を加味して設定した。また，(1)(3)(4)に共通する事項として「安全」に関することが挙げられる。

(2) 児童について

(省略)

(3) 教師のねがい

本単元は，学校内やその周辺の施設，学校生活を支えている人とのかかわりを通して，学校及びその周辺には様々な施設があり，学校生活を支える人が存在することに気づき，ルールや約束を守り楽しく安全に学校生活を送ることができるようになることをねらっている。そのため，児童が多くの人と交流し，かかわりを深められるような授業を展開したい。その活動を通して，自分たちがたくさんの人に見守られていることに気づき，学校や地域に安心感を持つとともに，自分を大切にする気持ちを育て，安全な生活への意識を高めたい。

また，小学校へ入学し，大人に保護されていた環境から，一人で登下校するという新しい環境に慣れてきた時期である。日常的な安全教育は入学後から継続的に続けており，本単元でもさらに見守っている人の存在に気づかせながら，約束やルールを守って安全に登下校しようという主体的な思いが持てるように導きたい。その上で，災害時の防災教育の視点も取り入れていきたい。1年生は，地震や台風などの自然災害に一人で遭遇した経験がほとんどない。そこで，危険な状況を考える手がかりとして，防災副読本の絵や写真を活用していこうと考えた。ひらがなをようやく覚えた段階の1年生であるため，見つける，丸で囲むなどして活用させ，危険な状況に気づき，安全な避難について考えるきっかけとしたい。そして，普段から見守ってくれている人が災害時も信頼できる大人であることに気付かせ，日頃から感謝の気持ちを持ってかかわっていきたいという心情につなげたい。

4 単元の指導計画と評価規準

※ 別紙

新防災教育副読本（小学校1・2・3年）

『第4章1 家のまわり学校のまわり』を活用した生活科の指導案例

5 本時の指導

(1) 本時のねらい

通学路探検の活動を振り返り、自分たちの安全を守ってくれる人々や施設などに気付くとともに、災害時に身を守るために注意しなければならないことや安全に避難する方法について考える。

(2) 指導過程


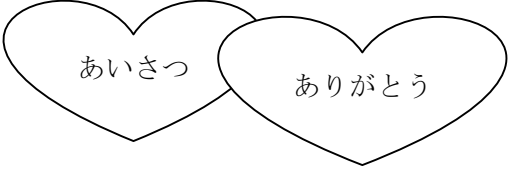
主な学習活動・内容（○主な学習活動・児童の反応）	・留意点 ◎評価
<p>1 前時に通学路を歩いて見つけたものや出会った人を整理する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">○ 通学路探検で何を見つけましたか。どんな人に会いましたか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな道路があつて、車や自転車がたくさん通っていたよ。 ・信号機や標識があつたよ。 ・大きいビルやマンションもあつた。 ・ベストを着たおじさんとあいさつしたよ。 <p>2 通学路で注意するところについて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">○ 歩くときに、気をつけたことはありましたか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・道を渡るときは止まって右と左をたしかめたよ。だって、車が急に飛び出してくるかもしれないから。 ・ちゃんと並んで歩道を歩いたよ。広がると人が通れないから。 ・歩道がないときは、1列になって歩いたよ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">○ 地震が起きたらどんな危険があるか考えよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・塀の近くは歩かない方がいいよ。くずれてくるかもしれないよ。 ・ビルの窓ガラスが割れるかもしれないよ。 ・自動販売機が倒れてくるかもしれないよ。 ・エレベーターに閉じ込められるかもしれないよ。 <p>3 安全に避難するためにはどうしたらよいか、考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倒れてくるものから離れた方がいいね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童からでたものを写真や言葉で掲示する。 ・教師が撮ってきた写真などを用意し、場面を想起しやすいようにする。 ・ものにこだわらず、人にも着目させ振り返らせる。 ・防犯ベストに着目させ、何をしている人なのか考えさせる。 <p>◎安全を守るもの、施設、人々の存在に気付いている。（発表、つぶやき） [気付き]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に学習した交通ルール・マナーの話が中心になると思われる。安全を意識して歩行できたことを十分認め、できた自分を実感させる。 ・危ないと判断する場面を取り上げて共有しながら、交通ルールやマナーを守ることに自信を持たせ、日常の主体的な行動へつなげる。 <p>・新防災教育副読本 P26～27 の「①学校のまわり」「②家のまわり」にある絵や写真を利用して考える手がかりとする。危ない場面の絵や写真を○で囲む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域性から特に注意を必要とする箇所は、教師から提示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・危険な場所やものから身を守る方法について気付いたことを発表させる。 ・出会った人たちが助けてくれることにも気付か

新防災教育副読本（小学校1・2・3年）

『第4章1 家のまわり学校のまわり』を活用した生活科の指導案例

<ul style="list-style-type: none">・落ちてくるものから自分の頭を守らないと。・近くにいる人に助けてもらう。	<p>せ、日頃のかかわりについても考えさせる。</p> <p>◎安全に避難するために注意しなければならない場所や安全に避難する方法について気付いている。（防災副読本，発言） [気づき]</p>
---	--

(3) 板書計画

つうがくろで みつけたもの	であった ひと
<p>写真 写真 写真</p>	<p>写真 写真 写真</p>
<p>・おおきなどうろ ・くるま ・じてんしゃ ・しんごうき ・ひょうしき ・ほどうきょう ・ビル, マンション</p>	<p>・まもらいだーの〇〇さん ・こうばんの〇〇さん ・みまもりたいの〇〇さん</p>
	<p>○たおれるものから はなれる ○あたまを まもる ○たすけを もとめる ○あわてない</p>
	

(4) 準備物等

- ・通学路探検で撮った写真
- ・新防災教育副読本（小学校1・2・3年）

生活科 第1学年 単元指導計画(防災)



単元名	単元の目標		予定時数	実施時数	
	友達と一緒に校舎内や校庭を歩いたり、通学路の様子を調べたりして、学校の施設や、学校生活を支えている人々や自分たちの安全を守っている人々のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活ができるとともに、安全な登下校ができる。		15		
単元の評価規準	ア 生活の関心・意欲・態度		イ 活動や体験についての思考・表現		ウ 身近な環境や自分についての気付き
内容のまとめりごとの評価規準	学校の施設の様子、学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々に関心を持ち、楽しく学校生活を送るとともに、安全な登下校をしようとしている。 (内容(1))	学校の施設の利用、学校生活を支えている人々や友達との関わり、安全な登下校などについて、自分なりに考えたり、工夫したり、振り返ったりして、それを素直に表現している。 (内容(1))	学校の施設、学校生活を支えている人々や友達、及び通学路の様子などが分かり、それらと自分の関わりに気付いている。 (内容(1))		
次(時)	「小単元名」 ◎ねらい ○学習活動	指導上の留意点	評価 アイウ	備考 【言語活動、ICT活用、地域の特性等】	
1次 (1) (2) (3)	「みんなで がっこうを あるこう」 ◎校舎内や校庭を歩いて、学校の教室や施設に興味を持つことができる。 ○教師と共に、みんなで学校を見て回る。 ○学校を歩いてみて、発見したことや不思議に思ったことを話し合う。 ○学校の中を歩くときのルールやマナーを話し合う。	・「何に使う部屋かな」「何のためにあるのかな」など、何を見るのが参考になる視点を与えながら、探検させる。 ・「どのように使うのかな」「どんなことに気を付けるといいのかな」など、児童が実際に使うときに気を付けさせたいことに気付かせる。	○	【言語活動】 ・歩いている中で、進んで挨拶したり、適切に関わったりした姿が見られたときには、その場で認め、進んでコミュニケーションをとらせるようにする。 ・発見したことや不思議に思ったことを伝え合う活動を取り入れ、「場所」「もの」「人」について共有させる。	
2次 (4) (5)	「がっこうを たんけんしよう」 ◎友達と一緒に、自分が興味を持った場所に探検に行き、そこにあるものやその役割について調べたり、働いている人や上級生などに話を聞いたりすることを通して、学校の施設の様子に気付くことができる。 ○友達と探検に行きたい場所を出し合い、探検に行くところを決める。 ○グループで学校探検をする。 ○探検を通して発見したことや気付いたことを伝え合う。	・「みんなで がっこうを あるこう」の活動を基に、もう一度行きたい場所について話し合い、探検への意欲化を図る。 ・「何を発見したいのか」など、対話を通して、探検の目的をはっきりさせるようにする。 ・「どんな場所があったか」「どんなものがあったか」「ものにはどんな意味があるのか」など児童の発見したことを整理しながら、まとめる。	○		
3次 (6) (7)	「がっこうの ひとと なかよくなるよう」 ◎友達と一緒に、学校の人と繰り返し関わることを通して、学校生活を支えている人々のことが分かる。 ○前時の探検で自分たちが関わった人のことを思い出し、更に関わってみたい人を決める。 ○学校の人と話をしたり、質問をしたりする。 ○教室に戻って、見つけたことや教えてもらったこと、気付いたことを学習カードに記入し伝え合う。	・「がっこうを たんけんしよう」の中で、インタビューしてきた児童の活動を紹介し、学校の人と仲良くなろうとする意欲を高める。 ・インタビューの際、仕事の内容だけでなく、どんな思いで仕事をしているかということにも触れさせる。	○	【言語活動】 ・探検の中で適切に挨拶したり、インタビューしたりできるように事前に練習をさせる。 ・記録カードを基にした発表を通して、伝え合う活動をさせる。	
4次 (8) (9)	「こうても たんけんしよう」 ◎校庭で、草花や虫を観察したり、飼育動物と関わったりして、動植物と触れ合う楽しさが分かり、校庭の施設の様子に気付くことができる。 ○校庭の春の草花や虫を観察したり、飼育動物と関わったり、施設を利用したりする。 ○校庭で見つけたことや気付いたことを、先生に伝えたり、友達と伝え合ったりする。	・休み時間に校庭で遊んだことや、校庭の動植物について話し合わせるなどして、校庭の動植物や施設に関心を持てるようにする。 ・活動の終了時刻や活動範囲など、校庭を探検するときの「約束」を決めて活動させる。	○	【ICT活用】 校庭で記録した動植物の写真を拡大して、提示する。	
5次 (10) (11) (12)	「がっこうで みつけたことを はなそう」 ◎校舎内や校庭で見つけたことなどを伝え合うことを通して、先生や友達のことが分かり、安心して学校生活を送ることができる。 ○学校で見つけたことや気付いたことを、絵や簡単な文章で記録カードに書く。 ○記録カードを使って友達と見つけたことを伝え合う。	・これまでの活動をみんなで振り返り、発見したことなどを話し合う中で、自分が伝えたいことを明確にさせる。 ・教師が聞き取りをし、自然な形で児童同士の学びへ広げていくようにする。	○ ○	【言語活動】 記録カードを基に、自分が見つけた学校の様子を伝え合わせる。	
6次 (13) (14) (15)	「みんなで つうがくろを あるこう」 ◎先生に引率されて通学路を歩きながら 危険箇所を見つけたり、自分の地域の避難場所を確かめたりする活動とおして、自分たちの通学路の安全を守っている人々や施設に気付くことができる とともに、 災害時に安全に避難する方法について考える。 ○学校の外を歩く際のルールやマナーを話し合う。 ○通学路で注意するところについて考える。 ○ 通学路をみんなで歩き、安全を守っている人々や施設を見つける。 ○ 通学路探検を振り返り、通学路の安全を守っている人々や施設のことを伝え合う。 ○ 災害時の危険箇所と安全な避難について考える。	・毎日の登下校時における通学路の様子について話し合い、どのようなルールやマナーがあるかを発表し、通学路の様子に関心を持てるようにする。 ・ 新防災教育副読本P26～27を活用する。 ・初めての校外活動となるので、道路の歩き方、横断歩道の渡り方など、安全指導を十分に行う。 ・ 教師が撮ってきた写真を提示し、場所を想起しやすいようにする。 ・ 地域性から特に注意を必要とする箇所は、教師から提示する。 ・ 注意を要する場所やものから身を守る方法について気付いたことを発表させる。 ・ お互いの考えを共有させることで、防災の意識をはぐくむ。	○ ○	【ICT活用】 安全に関する設備や危険箇所の写真を提示する。 【言語活動】 資料や見つけたことを基に、気付いたことを伝え合わせる。	

※ 下線部は 防災教育関連


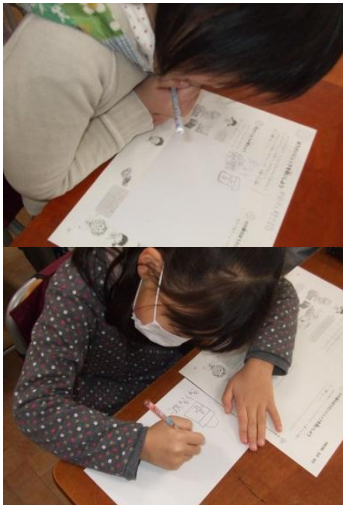
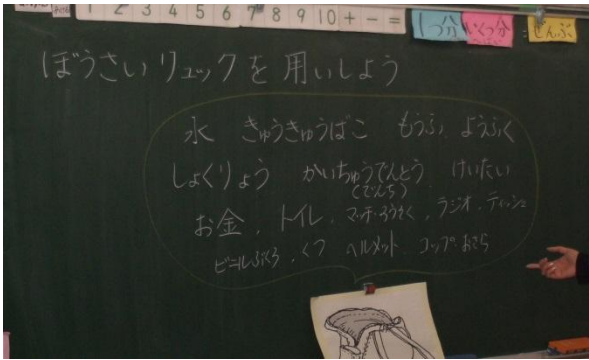
ふるさとの復興を考える取組

学校名 岡田小学校 小学校 1・2・3 年版	氏名 伊藤 美穂 単元名 ふるさとを元気に 自分たちにできること P14～21 教科・領域名 学級活動	時間 45分
主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際	
<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復興に向け行動している人々の姿を見て感じたことをもとに、今自分にできることを考える。 <p>1 自分の学校や地域のよいところ、仙台について知っていることを考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【児童の反応】</p> <p>＜学校＞・あいさつがいい・オアシス言葉・みんな仲よし・緑がいっぱい・先生がやさしい ＜地域＞ボランティアさんがいる・自然がいっぱい・お米や野菜がおいしい・大人がみんな親切 ＜仙台＞・緑が豊か・七夕祭りなどのイベントがある・募金などをしてくれる・人が温かい</p> </div> <p>* ワークシートに記入しながら考えさせた。</p> <p>2 副読本をもとに、たくさんの人々がふるさとの復興のために活動していることを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【児童に伝えたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、地域、仙台はわたしたちの「ふるさと」であること。 ・ふるさとを復興させるために、大人も子供もさまざまな活動をしているということ。 </div> <p>* 副読本の写真に加え、学校の復興プロジェクトの様子をパワーポイントで提示した。</p> <p>3 自分たちにできることを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつを大きな声でする。 ・ごみひろいを進んで行く。 ・復興イベントに進んで参加する。 ・運動会や学芸会、マラソン大会などで、地域の人にがんばる姿を見せる。 ・毎日の勉強をがんばる。 ・友達に優しくする。 ・支援してくれた人たちに感謝の手紙を書く。 </div> <p>* ワークシートに記入しながら考えさせた。</p> <p>* グループで自分が考えたことを話し合い、その後発表させながら全体で共有した。</p>	<p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント・パソコン・大型テレビ ・副読本・ワークシート <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;">    </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【児童の感想から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼうさいの学習で、学校のいいところ、地域のいいところ、仙台のいいところなどがいっぱい分かって、「すごくいいまちだなあ」と思いました。 ・ふっこうするのは大変なことなんだとあらためて思いました。みんながいっしょけんめい働いたから、こんなにきれいな岡田にもどったんだと思います。 ・今日は、ふるさとのいいところが分かりました。わたしには何ができるかをあらためて思いました。 ・じゅぎょうをして、わたしたちができることはたくさんあることが分かりました。これからはできることをどんどんやっっていこうと思っています。 </div>	

安全教育と関連させた取組

学校名 向陽台小学校 小学校 1・2・3 年版	氏名 村上 和恵 単元名 家のまわり 学校のまわり P 26～ 27 教科・領域名 学級活動 時間 45 分	
主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際	
<p>【ねらい】 家の周りや通学路の危険な場所を確認する活動を通して、災害時に安全に避難するために注意しなければならない場所について気付く。</p> <p>1 最近、在宅時に地震が起きた時の行動を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> この前、夜に地震がありましたね。その時みなさんはどこにいましたか。どうしましたか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・怖くて布団をかぶった。・テーブルの下にもぐった。 ・お母さんが守ってくれた。 <p>2 地震が起きると、どんな危険があるか考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 地震のときにどんな危ないことがあるでしょう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・がけが崩れる。 ・ブロック塀が崩れる。 ・物が倒れる。・電球が切れる。・電柱が倒れる。 ・道路にひびができる。・信号が消える。 <p>3 登下校中に気を付けることを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 学校に来る時、学校から帰る時、大きな地震が起きたら、どんなところに気を付けたらいいか考えましょう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・湖みたいなところ（実際は調整池）があるよ。 ・お店の看板が大きいよね。 ・ここに信号機がある。 ・この階段を歩いている時だったら怖いね。 ・この場所知ってる。大きいがけだよ。（学校近くののり面。） <p>4 意見をクラス全体でまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の視点でまとめていった。 (1) 倒れそうなものの近く（自動販売機や信号機） (2) こわれてきそうなものの近く（ガラス、屋根瓦など） (3) 離れた方がいい所（海や川、エレベーター） <p>5 避難する場所について知る。</p> <p>6 本時の学習を振り返る。</p> <p>【児童の感想から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなお店の看板に気を付けようと思いました。 ・階段を歩いている時は、何も無いところに行く。 ・信号機に気を付ける。 	<p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区安全安心マップ ・ワークシート <p>◇地震は突然起きること、家族が留守の時や、登下校中に地震が起きた時の体の守り方も知っておくことが大切なことに気付かせた。</p> <p>◇P26の2枚の写真「くずれた家」「こわれたビルのみど」を参考にさせた。</p> <p>◇学区安全安心マップの写真（危険箇所が写っている物）を見ながら、意見を出させた。</p> <p>◇地区ごとにグループを作って話し合い、具体的に思い浮かべられるようにした。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p>◇地区の安全な避難場所（家、学校、公民館等）を具体的に知らせる。</p> <p>◇家に配布している学区安全安心マップを確かめるように伝えた。</p> <p>◇ワークシートに記入させる。</p> <p>【指導を振り返って】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全安心マップは1年生では難しいので写真を中心に活用した。具体的な状況や場所を想起させることが大切だと感じた。 	

防災リュックで家庭を啓発！

<p>学校名 南中山小学校 氏名 三浦 ゆう</p> <p>小 学校 1・2・3年版 単元名 ぼうさいリュックを用いしよう P36～37</p> <p>教科・領域名 学校行事 時間 45分</p>	
<p>主な学習活動（実際に行った活動）</p>	<p>指導の実際</p>
<p>ねらい</p> <p>○もしもに備えて、自分の家の防災リュックを準備することができる。</p> <p>1 リュックについて考える。</p> <p>リュックってどんな時に使いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠足の時 ・出かける時 <p>リュックには何をいれますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お弁当 ・おやつ ・レインコート <p>2 防災リュックの役割を考える。</p> <p>防災リュックっていつ使うのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震がおきたとき ・電気や水道が止まったとき <p>「何が必要か考えよう」を読み、自分なら防災リュックに何を入れるか絵に描きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水 ・食べ物 ・着替え ・ラジオ ・薬 ・懐中電灯 ・ティッシュ <p>3 わが家の防災リュックについて考える。</p> <p>「わが家のぼうさいリュックを用いしよう」を読み、お家の人と話し合って書きましょう。</p>	<p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P37のリュックの拡大図 ・ワークシート  <p>○普段使用するリュックと防災リュックの両方を取り上げることで、防災リュックの役割について考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content;"> <p>《子供の様子》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの子もあまり悩まずに自分が必要と考える物を描いていた。 ・「必ずほしい物は何かな。」などと友だちと話しながら描いている子もいた。 </div>  <p>○活動の最後に、リュックに入りたい物を発表し合う。その際、家族構成に触れ、それぞれの家庭に応じた防災リュックを準備する必要があることに気づかせた。</p> 
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>家庭へのよびかけ（学級通信等で）</p> <p>もしもに備えて防災リュックを準備することは子供の防災意識を高める具体的な取り組みの第一歩になります。もしもに備えて、ぜひご家族で防災リュックに入れるものを話し合っほしいと思います。必要なものを話し合うことで家族の防災会議となります。</p> </div>	